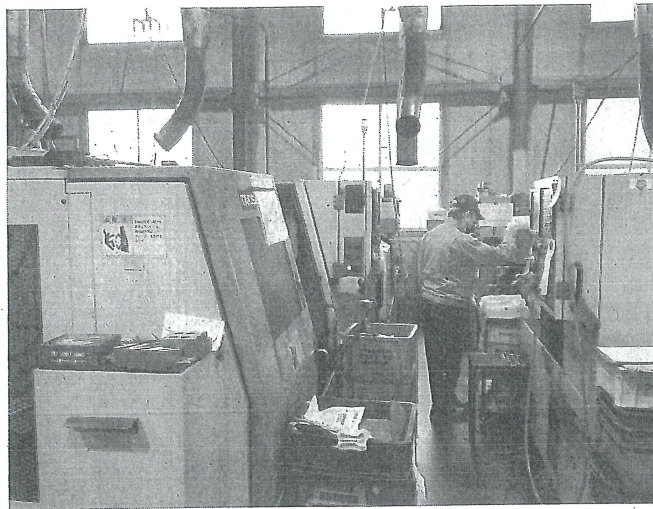


# 前田鉄工がロボ部品

## 試作品 非自動車領域を開拓



【名古屋】前田鉄工所（名古屋市中川区、前田基樹社長）は、自動車部品以外の新規分野開拓の一環でロボット向け部品の試作品を受注した。月内にも加工を開始する。同社は歯車やシャフトなどトランスミッション（変速機）部品やエンジン部品を主力とし、現状は車向けが売上高の7割を占める。これらの部品の受注の波や車の電動化による将来の需要減に備え、高精度加工の強みを生かして顧客の幅を広げ、安定した収益を確保する。

前田鉄工所として初めて受注したのはロボット部品の加工は初。社内では旋盤やMCを活用してロボット部品を加工する。

易度の高い部品となる。社内の旋盤やマシンングセンター（MC）を活用する。

試作品は数十個の規模だが、前田社長は「量産品の受注も獲得できれば」と期待を寄せる。今後はロボット関連のビジネスを収益の柱の一つに育てる考えだ。量の拡大に際して設備投資も検討する。

同社は歯車やシャフト、旋盤などの知見を生かし、27年に売上高全体の25%を新規ビジネスにする目標を掲げる。ロボットのほか農業機械向けでも新規案件にアプローチしている。自動車部品では電動車部品も含め、トランスミッションやエンジン以外の部品の受注も狙う。

# 「トレルボルグ」追加

## 横浜ゴム、農機用タイヤに

横浜ゴムは農業用機械、産業・港湾用車両向けのプレミアムタイヤブランド「トレルボルグ」の農機向けタイヤを追加すること、日本市場でのブランド

「ギヤラクシー」の商品を販売していた。横浜ゴムは2023年にスウェーデンの農機向けタイヤ大手、トレルボルグ・ホイール・システムズを買収した。

横浜ゴムの推定では農機向けで同社は世界シェアトップ、産業・港湾用車両向けでは同2位に位置する。24年7月には米グッドイヤーの鉱山・建設用車両向けタイヤ事業の買収を表明するなどオフハイウェイタイヤ（OHT）事業を強化している。

# インドの社会課題解決

## スズキ、現地2組織と覚書



スズキはインドの国 ACE、グジャラート管協会（AMA、同州）の2組織とそれぞれ協力の覚書を結んだ。ACEは学生や産業界の解決に寄与する活用方法の開拓と持続可能な事業創出を目指す。AMAは公的機関や企業と協力して多様な

業関係者の訓練と技能開発を推進する教育機関。今回の協力ではスズキの電動車いすの技術を応用した「電動モビリティベースユニット」を活用する。同ユニットにスタートアップの技術を組み合わせて、インドの社会課題

# 大人仕様「ロードスター」



## 熟成ワイン色の外板

マツダはスポーツ車「ロードスター」誕生35周年を記念した特別仕様の予約受け付けを開始した。熟成を極めた大人のためのロードスターを掲げて、内外装を上質に仕上げた。2月上旬の発売予定。受注生産による注文の受付期間は3月3日までとし、受注台数に制限は設けない。国内向けの生産計画は100

## マツダ、35周年記念特別車

（編）0ム 37 25